

若疑シク覚候ハバ  
我等ノ所業終候処ヲ  
爾等眼ヲ開テ看ヨ

6月5日  
毎月5日、20日発行  
第51号  
購読料30円  
半年分1,800円(送料別)

# 叛旗

共産主義者同盟

人権部 文部省  
川中 都府 都府  
東 都府 都府  
小 都府 都府  
共 都府 都府  
T 都府 都府  
E 都府 都府  
L 都府 都府  
D 都府 都府

6月15日 6:15闘争全関西総決起集会  
7月上旬 インフレ・投機闘争第5波闘争(予定)  
7月11日 共産同政治集会

## 早大一インフレ・投機闘争に全力を傾注し 日本革命運動の負的伝統を転倒せよ!

### 民衆の自発的・内発的共同性を開削し 政治闘争の内化、社会闘争の拡充へ!

#### 国家の歴史的・構造的 位相と革命の現実性

#### 小選挙区策動と 支配層の危機の性格

この闘争は、日本革命運動の歴史の中で、最も重要な転機の一つである。戦後の日本は、表面的には民主主義国家として発展したが、その内面では、国家の歴史的・構造的位相が、革命の現実性を決定している。国家の位相とは、その歴史的経緯、社会的構造、経済的基盤などを指す。戦後の日本は、戦前と同様に、国家の権威を維持するために、社会の階級を固定し、階級間の対立を抑制しようとした。その結果、社会の自発的・内発的共同性が開削され、政治闘争が内化され、社会闘争が抑圧された。しかし、現在の日本は、インフレ・投機闘争の激化によって、国家の位相が激変している。この激変は、国家の歴史的・構造的位相を打破し、革命の現実性を生み出している。我々は、この激変を利用して、国家の位相を転倒させ、社会の自発的・内発的共同性を開削し、政治闘争の内化、社会闘争の拡充を達成しようとする。この闘争は、日本革命運動の歴史の中で、最も重要な転機の一つである。我々は、この転機を利用して、国家の位相を転倒させ、社会の自発的・内発的共同性を開削し、政治闘争の内化、社会闘争の拡充を達成しようとする。

■ 支配階級の泥沼的延命策動を粉砕し  
早稲田一投機インフレ闘争の大胆な展開を踏まえ  
関西の地に革命派の戦列を更に打ち固めよ!

6.15 闘争全関西総決起集会  
京都・三条河原 (三条大橋下) 午後6時(7時でも出席)  
呼びかけ：関西地区反帝戦線連合



6月4日、3千の学生が見守る中、革マルへ向けた進軍を説明する反帝戦線

### 6.4 早稲田 三度の白兵戦に勝利し抜き 革マルを完全撃破 早大解放闘争へ決定的突破口を拓く

6月4日、早稲田大学で発生した学生闘争は、日本革命運動の歴史の中で、最も重要な転機の一つである。この闘争は、早稲田大学の学生と革マル派との対決であり、三度の白兵戦を経て、学生側が勝利を収めた。この勝利は、早稲田大学の学生闘争を、早稲田大学解放闘争へと発展させる決定的突破口を拓く。この闘争は、早稲田大学の学生と革マル派との対決であり、三度の白兵戦を経て、学生側が勝利を収めた。この勝利は、早稲田大学の学生闘争を、早稲田大学解放闘争へと発展させる決定的突破口を拓く。この闘争は、早稲田大学の学生と革マル派との対決であり、三度の白兵戦を経て、学生側が勝利を収めた。この勝利は、早稲田大学の学生闘争を、早稲田大学解放闘争へと発展させる決定的突破口を拓く。

71年9・16 三橋線 次弾収用阻止  
東峰十字路闘争  
6月12日(火)  
午前10時・千葉地裁  
71年11・19 闘争公判  
6月21日(木)  
午後1時・東京地裁

### 早稲田一インフレ・ 投機闘争と戦略問題

早稲田大学のインフレ・投機闘争は、日本革命運動の歴史の中で、最も重要な転機の一つである。この闘争は、早稲田大学の学生と革マル派との対決であり、三度の白兵戦を経て、学生側が勝利を収めた。この勝利は、早稲田大学の学生闘争を、早稲田大学解放闘争へと発展させる決定的突破口を拓く。この闘争は、早稲田大学の学生と革マル派との対決であり、三度の白兵戦を経て、学生側が勝利を収めた。この勝利は、早稲田大学の学生闘争を、早稲田大学解放闘争へと発展させる決定的突破口を拓く。

7-11  
所：武蔵野公会堂 開場：午後5時半  
主催：共産主義者同盟

# 早稻田

## 〈自立〉と〈叛逆〉の拠点を更に打ち固めよ 持続—実力的大衆運動の重層的展開を

我々の運動は、戦前戦中を通じて、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

我々の運動は、戦前戦中を通じて、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

### 早大闘争の核心的な問題とこれからの

早大闘争の核心的な問題は、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

早大闘争の核心的な問題は、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

### 表々の方針と課題

表々の方針と課題は、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

表々の方針と課題は、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

## 泥沼的インフレ構造を打ち砕く 革命派の潮流を準備、形成せよ

泥沼的インフレ構造を打ち砕く。革命派の潮流を準備、形成せよ。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

泥沼的インフレ構造を打ち砕く。革命派の潮流を準備、形成せよ。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

### 運動、組織の大胆な展開と、第一の大事業

運動、組織の大胆な展開と、第一の大事業。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

運動、組織の大胆な展開と、第一の大事業。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

### 支配階級の混迷と70年代帝国主義的社会再編

支配階級の混迷と70年代帝国主義的社会再編。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

支配階級の混迷と70年代帝国主義的社会再編。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

### 激しい帝国主義的社会再編に抗し、新たな社会闘争の水路を

激しい帝国主義的社会再編に抗し、新たな社会闘争の水路を。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

激しい帝国主義的社会再編に抗し、新たな社会闘争の水路を。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

### 夏期一時金三割カハの要請

夏期一時金三割カハの要請。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

夏期一時金三割カハの要請。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

### 三上治同志下獄の報告

三上治同志下獄の報告。68年4—20間争判決実判1年6月。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

三上治同志下獄の報告。68年4—20間争判決実判1年6月。我々の運動は、常に「自立」と「叛逆」の二つの拠点を打ち固めてきた。これは、単に我々の運動の特色を表現するに過ぎない。むしろ、我々の運動の根柢を表現するに過ぎない。

共産同政治論文集  
**女めいの起境**  
発売中 700円